



明るく たくましい 明世の子

ビカリア

令和5年度
瑞浪市立明世小学校
NO. 6
R5. 8. 28

「正しく恐れる」知識と体験

「アシナガバチが飛んでいます。」とAさんが教えてくれます。「えっ、どこ？」と慌てて逃げようとするBさん。「別に、そっとしておけば刺されないよ。いつもあっちに飛んでいくから、巣があるんだと思います。」と冷静なAさん。



AさんもBさんも、アシナガバチが刺すことは知っているようです。でも、「刺されない」というAさん、怖がるBさん。この二人の違いはなにか、考えてみます。

Aさんは、ハチの生態について、知識をもっていました。私が「アシナガバチは大切にしてほしい。農業にはハチは必要。ミツバチもアシナガバチもそれぞれ役割がある。」と話したことを覚えていて、私に話しかけます。「アシナガバチは肉食で、幼虫に獲物を運んでいる。」「獲物は、イモムシや小さな昆虫で、団子にして持ち帰る。」「手で払ったりすると、襲われたと思って、刺してくる。そっとしておけば、虫を探しているだけだから大丈夫。」

剪定や草刈りの最中に巣に近づくと、威嚇してきます。あわてて逃げます。畑の隅や軒下にあるアシナガバチは、そのままそっとしておきます。出窓の下の巣は、近所の人を通るので、取り除くことにしました。暗くなってから切って落としました。アシナガバチは、地面に巣を落としても飛び去らないことに驚きました。しかたなく、殺虫剤をかけました。軒下のコガタスズメバチは、巣を落とすと、成虫はどこかへ飛んで行ってしまいました。おかげで、ハチの子（ヘボ）を取って食べることができました。ミツバチは花から花へ、花粉や蜜を集めて飛ぶことで、受粉を助けています。近くで見えても刺すことはありません。

「たくましき」には、上のような、知識と経験が必要です。ハチは確かに、危険な生物です。でも、すべてのハチを退治してしまったら、キャベツは青虫に食べつくされ、野菜も果実も受粉ができず、実らないことになります。3年生は、青虫がチョウになるまで観察します。モンシロチョウやスジグロシロチョウになること、時々、アオムシコマユバチに寄生されることも学習します。アシナガバチもアオムシも寄生バチも、自然の中で、つながりあって、バランスが保たれていることがわかります。

さて、2学期が始まりました。子供たちが楽しみにしている「運動会」、「修学旅行」、「社会見学」、「まち探検」など様々な活動や行事があります。これらの活動や行事を通して、たくましく成長してほしいと思っています。自分たちで計画を立てる、係として行動する、係に協力する、学校外の人たちから話を聞くなど、教科書だけでは学べないことも大切にしていきたいです。



話は変わって、今月は8（ハチ）月です。6日、9日、15日には、黙とうをささげる放送が流れました。子供たちは、なぜこの放送が流れるのか、学ぶ必要があると考えます。正しく恐れ、正しく判断して行動する「たくましき」を身につけ、よりよい社会を築いていくために。